

いち
市にん
認きょう
協

ニ

ュ

ー

ス

* 市原市認知症対策連絡協議会ニュース *

会長挨拶



市原市認知症対策連絡協議会
会長 小沢義典

市原市認知症対策連絡協議会は結成1周年を迎える事ができました。市原市で認知症に関わる様々な立場の人々の間に顔の見える関係が作られ、徐々に成果が上がってきています。この度、協議会の活動を市認協ニュースとしてお知らせする事となりました。

高齢化の進行に伴い認知症の問題がいろいろな場面で重みを増してきています。近い将来、市内でも認知症の方が一気に増加します。この対応が遅ければ、本人と介護者の問題にとどまらず、例えば、火事や交通事故等の増加、詐欺被害の増加、病院が行きどころのない認知症患者で占められてしまう、といった社会システム上の問題へと波及していきます。

認知症になっても安心して生活できる地域を作るためには、認知症への理解と幅広い協力体制が必要です。このニュースを見てより多くの方が協議会の活動に参加していただく事を期待しています。

●平成26年1月30日、市原市民会館大会議室にて96名が集まり、第3回の市原市認知症対策連絡協議会(以下、市認協)が行われました。高橋副会長の挨拶から始まり、ミニ講演会、各部会に分かれての話し合い、またカフェかさねについてや認知症支援リーフレットの報告が話されました。それぞれについて簡単に報告させていただきます。

ミニ講演会 市原警察署の生活安全課、田村課長よりお話をいただきました。オレオレ詐欺は、最近では振込よりも手渡しでの被害が増えており、その合計金額は6540万円の被害があります。このことから、2月17日よりナンバーディスプレイの電話機を貸し出す予定になっています。この機械は振り込め詐欺防止に役立つ機械で2年間はモニター無料との事。是非活用して見て下さい。会場から出た質問として、警察の認知症対策について：防災無線を流せるため、警察へ連絡をする場合は早い方が良い。また、認知症の方に「わからなくなったらコンビニに入って聞く」習慣をつけておいた方が良いとの事です。行方不明になりそうな方がいた場合に、写真や情報を伝えた方が良いか：警察に来なくても電話で特徴を伝えてくれれば県内に手配をかけます。「いなくなったかも」という段階で連絡をしてください。とのご意見を頂きました。

各分科会報告

【医療部会】 開業医やサポーター医に読んでもらいたく、市認協ニュースを作り必要なところへ配信する。また、健診制度スクリーニングテストについて検討されました。

【施設部会】 入所受付をする担当者のネットワークを作り、気軽に相談できるようにしていきたい。まずは、本日の出席者で連絡先をまとめる。そして市内の相談先一覧表を作成する。施設の情報交換のためには、統一した書式づくりで連携の促進を図っていくなど、相談員のネットワーク作り・認知症サポーター養成講座について検討がなされました。

【地域部会】 高齢者見守りネットワークについて検討しました。意見として、認知症を近所で隠さないことが近所の見守り体制強化につながる事や、認知症の方の居場所づくり、110番のような目印が必要。また、地域包括センターでは新聞配達業者やお弁当配達の方にいつもと違うことがあれば連絡してもらおうようお願いをしています。市が協定を結んで体制づくりを進めていきたいとの話し合いがなされました。

【サービス事業所部会】 認知症高齢者に必要な情報とはどういうものかについて話し合い、緊急時に入所を考えたとき、施設の空き状況が知りたいとの意見が上がりました。案としては市認協のHPにリンクを張る事や、市のHPに記載するなどの対応策が話し合われました。

